

## 平成 30 年度 仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）議事録

1 日 時 平成 30 年 12 月 6 日（木）18：30～20：30

2 場 所 青葉区役所 4 階 第 1～3 会議室

3 出 席 阿部委員，岩槻委員，大坂委員，奥田委員，小野委員，小幡委員，川村委員，菅野委員，佐々木委員，柴田委員，鈴木委員，清野委員，高橋委員，瀧澤委員，中嶋委員，中村委員，西尾委員，支倉委員，原委員，三浦委員

[事務局]郷湖障害福祉部長，菅原障害企画課長，伊藤障害者支援課長，只埜障害者総合支援センター主幹（所長代理），原田精神保健福祉総合センター主幹（所長代理），中村北部発達相談支援センター所長，蔦森南部発達相談支援センター所長，大関青葉区障害高齢課長，和泉宮城野区障害高齢課長，伊藤若林区障害高齢課長，都丸太白区障害高齢課長，槻田秋保総合支所保健福祉課長，小幡企画係長，加藤サービス管理係長，佐藤（嗣）社会参加係長，高橋主幹兼地域生活支援係長，佐藤（大）障害保健係長，天野施設支援係長，那須指導係長，太田主事，平吹主事

ほか傍聴者 1 名

### 4 内 容

#### （1）開 会

事 務 局 それでは，ただいまより平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）を開催いたします。

#### （2）会長挨拶

事 務 局 まず，会長よりご挨拶いただきたく存じます。  
阿部会長，よろしく願いいたします。

会 長 皆さん，おばんでございます。座ったまま挨拶させていただきます。  
本日は，30 年度の第 2 回の障害者施策推進協議会にお集まりいただき本当にありがとうございます。  
今日のテーマはモニタリング，量的モニタリング，質的モニタリングということが主の内容になります。  
そしてまた，質的モニタリングということで「障害福祉の仕事を知ろう！話そう！」という「ココロン☆ワーク スペシャル」に 9 人の委員の方にご参加いただきましたので，後ほど，その 9 人の方々からご意見やご感想をいただくことも今回の予定にしております。  
障害者福祉は今大きく変わってきており，また課題も見えてきています。そのよ

うなことで、本日よろしく申し上げます。

簡単でございますけれども、挨拶にさせていただきます。

### （3）議事録署名人指名等

#### （1）定足数の確認

事務局より定足数の確認がなされ、会議の成立が確認された。

#### （2）議事録署名人指名

議事録署名人について、会長より奥田委員の指名があり、承諾を得た。

### （4）報 告

#### （1）仙台市における障害関係統計値の推移について

#### （2）仙台市障害者保健福祉計画に係る量的モニタリングの結果について

#### （3）仙台市障害者保健福祉計画に係る質的モニタリングの結果について

#### （1）仙台市における障害関係統計値の推移について

会 長 はじめに、報告の（1）です。仙台市における障害関係統計値の推移について、事務局より説明願います。

事 務 局 障害企画課の菅原です。報告事項（1）仙台市における障害関係統計値の推移について、ご説明いたします。

まずは、資料 1 をご覧ください。1 ページ「1 障害者手帳所持者数の推移」でございます。平成 29 年度末時点の総数は 4 万 9,633 人でございまして、人口比率では 4.5%。平成 20 年度からの年増加率は 2.3%でございます。

特に療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の伸びが大きいのは、近年の特徴でございます。

裏面にいきまして、2、3 は、身体障害者手帳所持者の推移でございます。

身体障害者手帳は、加齢に伴い障害を抱える方が多く、社会の高齢化の影響が出ているものでございます。

具体的には、年齢構成比につきましては、65 歳以上の所持者の比率が増加しており、平成 29 年度末時点で 68.1%が 65 歳以上となっております。

また、年齢別推移につきましては、身体障害者手帳の所持者数は 65 歳以上で大幅に増加しております。40～49 歳においても増加傾向にあるものの、おおむね 65 歳未満の所持者数の合計は減少傾向にございます。

右面にいきまして 4、5 でございます。こちらは療育手帳所持者の状況でございます。

年齢構成比は、18～29 歳及び 40～49 歳で所持者数が増加傾向にあり、年齢構成比に占める割合が拡大してございます。

## 平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）

年齢別推移につきましては、18 歳未満及び 18～29 歳の所持者数が多く、60～64 歳を除く全ての年代で増加傾向にございます。なお、全体の手帳所持者の増加率には大きな変化はございません。特に 18～29 歳の部分が 131 名と増加が多いのが特徴でございます。

次に 6，7 の精神保健福祉手帳所持者数の状況でございます。

年齢構成比につきましては、50～59 歳の所持者数の増加が、他の年齢層よりも大きいため、年齢構成比に占める割合が拡大しております。

年齢別推移につきましては、特に 40～49 歳の所持者が多くなっております。また、全ての年齢区分で所持者数が増加傾向にございます。とりわけ、40～49 歳、50～59 歳、このあたりの年齢層の増加が多いのが特徴でございます。

右側にいきまして 8. 難病認定者数の推移でございます。昨年度は指定難病の認定数が減少になっております。

9. 障害福祉サービス利用者数の推移でございます。これにつきましては昨年度より増加し、平成 29 年度の人数は 9,778 人と、前年比で 381 人の増加、4.1%の増加率となっております。

以上が平成 29 年度の障害関係統計値の推移でございます。

会 長 ありがとうございます。  
ただいま報告（1）について事務局より説明がありました。  
皆様からご意見・ご質問などありましたらいただきたいと思っております。いかがでしょうか。  
それでは、資料 1 仙台市における障害関係統計値の推移についてはよろしいでしょうか。次に進めさせていただき、またご質問ありましたら戻るということで進めさせていただきたいと思っております。

### (2) 仙台市障害者保健福祉計画に係る量的モニタリングの結果について

会 長 続いて、報告の（2）です。仙台市障害者保健福祉計画に係る量的モニタリングの結果について、事務局より説明願います。

事 務 局 障害企画課長の菅原でございます。  
(菅原 課長) 報告事項、障害者保健福祉計画に係る量的モニタリングの結果についてご説明いたします。

資料 2-1 をご覧ください。

平成 30 年 3 月に第 5 期障害福祉計画を策定いたしましたが、今回の報告につきましては、前計画である第 4 期障害福祉計画の実績でございます。内容につきましては、1 の施設入所者の地域生活への移行者数から 6 の地域生活支援拠点まで 6 つの到達目標についてです。

1 の地域生活への移行者数です。平成 29 年度までの実績は累計で 14 人となり、

目標の 45 人には及びませんでした。

2 の施設入所者数です。平成 29 年度の実績は 542 人と、目標の 537 人より 5 人多い結果となりました。

3 の一般就労への移行者数です。平成 29 年度実績は 219 人と、目標の 200 人より 19 人多い実績となりました。

4 の就労移行支援事業利用者数です。平成 29 年度実績は 405 名と、目標の 370 人より 35 名多い実績となりました。

5 の就労移行支援率です。目標の 50% に比べ 36.1% の実績となりました。

3 の就労移行者数及び 4 の利用者数は順調に増加いたしました。近年、新規開設の移行支援事業者が多く、それらの事業所は移行まで至っていないところが多く、率としては低めの数字となっております。

6 の地域生活支援拠点につきましては、平成 28 年度に整備基本方針を策定し、平成 29 年度は整備に向けて詳細な検討及び実態把握を行いました。

資料 2-1 の説明については以上でございます。

続きまして、資料 2-2 でございます。こちらは、第 4 期障害福祉計画において、計画期間内に重点的に取り組む事業としたものの実績でございます。

1 のグループホームの整備から 6 の相談支援体制の充実まで、6 項目を重点事業と定め推進してまいりました。それぞれの項目につきまして、平成 27~29 年度のそれぞれの目標と実績を記載しております。

網かけの部分は、それぞれの年度における実績から目標を引いた差でございます。数値がマイナスとなるもの、目標値に届いていない項目は▲をつけております。

具体的には、1 のグループホームの設置ですが、平成 29 年度の利用者の目標が 985 人に対しまして実績が 849 人と 136 名の不足となりました。

飛んで 4 の障害者家族支援等推進事業です。平成 29 年度は利用量が目標に対し 2 万 4,057 時間、年間利用者数は目標に対し 1,685 人、箇所数は目標の 10 カ所に対して 3 カ所下回っております。

5 の就労支援です。就労移行支援事業所のうち、就労移行率が 30% である事業所の比率でございますが、平成 29 年度では 50% 以上の目標に対して実績が 36.1% と目標を下回りました。

これ以外の項目につきましては実績が目標を上回りましたが、目標を上回ったものと下回ったものの双方について分析を行い、今後の施策に生かしてまいります。

次に、資料 2-3 をご覧ください。こちらは障害者総合支援法に係る主な事業の実績でございます。1 の居宅介護から 10 の放課後等デイサービスまで 10 の代表的なサービスの見込量と実績をグラフにまとめております。

1 の居宅介護は、ホームヘルプサービスの実績を 3 つのグラフで表しています。折れ線グラフが実績、点線の棒グラフが見込量となっております。以下、全てのグラフが同様のつくりとなっております。

最初のグラフは年間のホームヘルプサービスの 1 月当たりの提供時間です。平成

29 年度の実績は月 5 万 7,682 時間と、見込み時間の 6 万 7,000 時間を下回ったため、棒グラフが折れ線グラフよりも高い数値となっております。

次は 1 月当たりの利用者数でございます。平成 29 年度実績は月 1,679 人でしたが、見込みは 2,277 人だったため、棒グラフが折れ線グラフより上にあります。

次のページでございます。一人当たりの利用時間ですが、実績は 34.4 時間と見込みの 26.7 時間を上回りました。

次に 2 の生活介護でございます。利用者数や一人当たりの利用日数について 3 つのグラフがございますが、いずれについても平成 29 年度は実績が見込みを上回りました。

次に 3 の就労移行支援でございます。左上の図は月当たりの利用日数、左下の図は月当たりの利用者数でございます。ともに実績値が見込量を上回りました。左下の利用者数につきましては、月に 1 回でも行くとカウントされる図になっております。平成 29 年度は新規事業者が非常に多く、それらの事業者は月当たりの利用回数が少ない傾向にございますので、左手右上の図になりますと、利用者が月当たり何回利用したというグラフになりますので、前年度の見込量を下回る結果となっております。

次に 4 の就労継続支援 A 型でございます。左側のグラフをご覧ください。月当たりの利用日数、利用者数とも大きく減少しております。これは A 型事業者が減少した影響が多いところでございます。

次に 5 の就労継続支援 B 型でございます。3 の就労移行支援事業同様、左上の月当たりの利用日数、左下の月当たりの利用者数、ともに実績値が見込量を上回りました。こちらも 3 と同様に新規事業者が多く、それらの事業者は月当たりの利用者数が少ない傾向にございますので、右上の図になります、利用者が月当たり何回利用したかというグラフになりますと、前年度の見込量を下回る結果となっております。

3 から 5 の就労につきましては、A 型は減少し、就労移行支援及び B 型の事業者が増加する傾向となっております。

次に 6 の短期入所でございます。平成 29 年度は、2 つ目のグラフでございますが、1 月当たり利用者数は実績が見込みを上回りましたが、一人当たりの利用月数などは実績が見込みを下回りました。

次は 7 になります。次のページをお開きください。7 は共同生活援助、グループホームの利用実績です。29 年度の実績は、見込みを下回る実績となっております。

8 です。施設入所支援の利用実績です。

9 は計画相談支援でございます。こちらは 29 年度の実績が見込みを上回りました。

次のページを開いてください。10 は放課後等デイサービスの実績です。1 月当たりの利用者数など、3 つのグラフとも 29 年度は実績が見込みとほぼ同じか上回っている状況でございます。

資料 2 - 3 の説明は以上になります。

## 平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）

最後でございますが、参考資料 1, 2 をご覧ください。ホチキスどめしている厚い資料でございます。この資料は、障害者保健福祉計画・第 4 期障害福祉計画に掲載している事業につきまして、平成 29 年度の実績とその評価、今後の方向性を一覧にして掲載したものでございます。時間の兼ね合いもございまして、参考資料 1 と参考資料 2 につきましては、申しわけございませんが、説明を省略させていただきたいと存じます。後ほどご覧いただければ幸いです。

ここで、申しわけないのですけれども資料の訂正が 1 点ございまして、参考資料 1 でございます。18 ページ、18/27 というところでございますけれども、左に整理番号とございますけれども、106 番、障害企画課、リフト付自動車運行への助成というところの平成 28 年度実績でございます。下のほう数字が欠けてございまして、利用会員数とございます。これが「人」と書いてありますけど 352 人、下の利用回数が 1,072 回でございます。その右側に行っていただきまして平成 29 年度実績でございます。325 人とありますけれども、これが 304 人、利用回数 1,072 回とございますけれども、885 回となっております。申しわけございませんでした。訂正させていただきたいと思えます。申しわけございません。28 年度実績、私、350 と言ったみたいですが、325 人でございます。

障害者保健福祉計画に係る量的モニタリング結果についての報告は以上のとおりでございます。

- 会 長            ありがとうございます。
- ただいま、量的モニタリングということで、資料に基づいて事務局から説明がありました。
- まずは報告に関し皆様からご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。
- 原委員、お願いします。
- 原 委 員            仙台市教育委員会の原でございます。
- 質問になります。先ほどご説明あったのかもしれませんが、就労移行支援について、グラフを見ると平成 27 年度を境に V 字型になっておりますが、これは何か制度の変更が要因としてあるのか教えてください。
- 事 務 局            制度の変更というよりは、事業者数の増加が寄与していることが大きいと考えて  
(菅原課長)            おります。
- 会 長            よろしいでしょうか。ありがとうございます。
- そのほかにはいかがでしょうか。では、中村委員、清野委員の順番でお願いします。
- 中 村 委 員            知的障害者仙団協の中村です。

## 平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）

10 ページの障害福祉サービスの利用者数についてです。利用者数の増加は大変良いことだと思えます。福祉サービスは情報がないと利用ができないので、今後も情報提供に積極的に取り組んでほしいと思えました。大変良いことだと思っております。

会 長 ありがとうございます。大変良いことだというご意見です。なお、必要な方に必要なサービスを提供できる環境づくりを継続していただきたいと思えます。  
それでは、清野委員、お願いします。

清野委員 ピアサポートチーム七夕の清野でございます。  
私の理解がちゃんとできていないのかどうか確認をしたいのですけれど、まず、資料 2-1 の就労移行支援事業の利用者数はプラスになっています。しかし、就労移行支援事業所ごとの就労の移行率はマイナスとなっております。また、資料 2-3 の就労移行支援の一人当たりの利用日数が見込みを下回っております。この 3 つには関連があると思えますが、就労移行支援事業において利用日数が見込みを下回るということは、毎日通える人が少ないという結果ですよね。そうすると、就労移行率がマイナスとなるのは、ある意味当然の結果になってしまうのかと思えました。  
毎日継続して通所できる施設の体制や、私もよりそいホットラインの業務でよくご相談をいただくのが、就労移行支援事業に行っているけれども、職員さんがしばしば変わってしまい、自分がとても信頼していた職員さんがいなくなってしまうので行けなくなってしまうということです。  
そういったことが、次に出てくる人材育成の話につながってくるのかと思えます。これは全部が関連しているのかなと感じました。以上です。

会 長 では、事務局、お願いします。

事務局 (菅原課長) 我々としては、主な理由は新規事業者数が増えており、新規事業者さんは移行までなかなか結びつかないという例がございますので、その結果が影響していると考えております。  
一方、確かに人材が定着しないところで利用者数が減少することも考えられますので、そのことについても研究してまいります。

会 長 よろしいでしょうか。ありがとうございました。  
そのほか、この量的モニタリングのところでご意見・ご質問はございますか。  
鈴木委員、お願いします。

鈴木委員 仙台市社会福祉協議会の鈴木でございます。  
資料 2-2 の障害者家族支援等推進事業についてです。これは私の認識では非常

## 平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）

にニーズの高い事業と理解しておりますが、目標に達していない状況となっております。箇所数の目標自体は前年の箇所数を維持するものになっておりますが、3カ所の減となっております。その要因や、それが直接利用者の減につながっているのかどうかも含めて、教えていただければと思います。

会 長 事務局、お願いします。

事 務 局 障害者支援課の伊藤でございます。

(伊藤課長)

こちらのレスパイト事業ですが、実は平成 28 年度末をもって事業を廃止したところが4カ所ございます。うち3カ所が宿泊介護をやっていない施設であり、そちらにつきましては利用者数がそれほどいないということで廃止をされたところでございます。もう1カ所の廃止された施設は宿泊介護をやっている事業所さんとなります。そちらはそれなりに利用が多かったのですが、利用者のニーズに応えられる人員体制を確保できなくなってきたということで、事業から撤退されたというところ です。

そうした拠点施設ということで、宿泊介護を行っていた事業所さんが撤退されてしまったので、仙台市では平成 29 年度に新たな事業所を募集し、家族支援等の推進事業の充実を図るべく、平成 29 年度に落ち込んでしまった実績を今後回復できるよう取り組みを進めているところでございます。

会 長 ありがとうございます。柴田委員お願いいたします。

柴 田 委 員 宮城県自閉症協会の柴田と申します。よろしくをお願いいたします。

入所者の地域生活への移行数とグループホームの設置との兼ね合いについてです。グループホームの目標よりも大分少ないものになっていると思いますが、それに対する対策や、目標を下回った理由についてお願いします。

また、地域生活支援の相談支援体制の充実についてです。これは6カ所全てが目標を達成しておりますが、計画相談支援の利用数が非常に増えているということがあり、例えば、計画を立てる時期である高等部を卒業する人たちは、計画を立てるのを少し待たなければいけないということや、相談支援事業所を探しても見つからない状態で待っている状態だということをお聞きしています。その辺の兼ね合いというのはあるのかどうかをお願いします。

会 長 事務局からお願いします。

事 務 局 障害者支援課の伊藤でございます。

(伊藤課長)

まず、グループホームについて、目標を実績が大幅に下回ってしまったという要因です。平成 27 年に消防法施行令の改正があり、その影響で設備要件が厳しくなり、

なり手となる事業者が思うように集まらなかったという実態がございます。

仙台市としましては、そうした消防施設の設置に対する助成を継続的に行ってきたことと、平成 28 年度からはグループホームの開設支援事業という、開設時の相談支援を行う事業を開始したところでございます。現在、グループホーム連絡会という事業者さんの団体と連携しながら、そうし取り組みも推進しております。

目標には達しませんでした、そうした取り組みの成果もあり、目標の利用者数 300 の達成に向けて、平成 29 年度末の定員数は 298 を確保しました。しかし、実は市内だけではなく市外からも仙台市のグループホームを利用したいということで流れてきている方がいらっしゃる、そのようなこともあり実績との乖離が生じてしまったのかと考えております。

続きまして計画相談支援でございます。こちらは資料の 2-3 の 22 ページでは確かに目標を上回っておりますが、計画相談支援を担う事業所数としてはニーズに対応し切れていないところがございます。計画相談を実施できているのは大体 50%弱であり、それ以外の方はセルフプランで対応していただいているのが現状でございます。ですので、探してもなかなか見つからないというのは、そういった状況があるかと思えます。

仙台市としては、計画相談支援事業所数が不足しているということは認識しており、今年度に入り新規開設をしていただける事業所を増やすために約 3 年ぶりに事業所向けの説明会を開催しました。また、計画相談支援をバックアップする体制を早期に構築するため、基幹相談支援センターの開設に向けた検討を進めるなど対策を講じてきているところでございます。

会 長 柴田委員、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

そのほか量的モニタリングについて、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

### (3) 仙台市障害者保健福祉計画に係る質的モニタリングの結果について

会 長 続きまして、質的モニタリングということに移らせていただきます。

(3) 仙台市障害者保健福祉計画に係る質的モニタリングの結果について、また、事務局より報告願います。

事 務 局 障害企画課の菅原でございます。

(菅原課長) 質的モニタリングについてご説明いたします。資料 3-1 をご覧ください。

まず初めに 1 の部分でございます。第 1 回施策推進協議会において、障害者保健福祉計画等の取組状況に係る調査として、障害保健福祉計画の重点分野の 1 つである障害福祉分野で働く人材確保・定着の支援を進めるにあたり、事業所等のニーズの把握を行い、支援手法を検討することとしております。これについては参考資料 3 を添付しておりますが、このようなことを報告いたしました。

その後、事務局での検討を踏まえ、障害福祉に関心のある学生の仕事に関する疑

問や希望等のニーズ，障害福祉事業所で働く若手職員の仕事上のやりがいや悩み等をヒアリングする機会として，2 の概要にあるココロン☆ワーク スペシャルを実施し，学生さんや障害福祉事業所の若手職員さんによる意見交換を行いました。

まず①について，本企画を実施するために，代表的な学生さんとの意見交換会を開催いたしました。そこでは，学生さんの関心や事業所職員さんの悩み等の声をくみ取り 10 月のココロン☆ワーク スペシャルに反映することを目的としました。

②が今回の質的モニタリングと位置づけた意見交換会でございます。大学の先生方のゼミなどを通じてご紹介させていただいたほか，キャリアセンターのメーリングリストなどを利用し学生の応募を募りました。また，市内の N P O や社会福祉法人など 100 を超える障害福祉事業所にご案内を出し，大学生 21 名，障害福祉事業所若手職員 14 名の参加による意見交換会を行いました。

3-2 の上に写真を載せておりますが，こういったグループワーク形式により，机にお茶やお菓子を置いて気軽にお話しができる雰囲気をつくり意見交換会を行いました。本市職員がファシリテーターとなり，学生さんや事業所の職員さんの本音といたしますか，就職面接ではなかなか聞きにくいまたは出にくい話題を話し合ってくださいました。また事業所の職員さんにとっては，他の職場の情報交換や，今の学生さんが望んでいることを認識する場として，非常に有意義な場となりました。

グループワークに関しましては，各テーブルに 1，2 名の委員さんに入ってもらい，実際に学生さんとか若手職員さんの意見の聞き取りやアドバイスを行っていただきました。

流れにつきましては，まず 1 つ目のグループワークとして 30 分間で，「先輩達の 1 日を知ろう！」という題について，障害福祉事業所の若手職員の皆さんに事業所での 1 日のスケジュールを発表いただき，グループの皆さんで意見交換を行いました。仕事によって全く異なる 1 日の過ごし方をしていることや，職場の雰囲気などを話し合い，苦勞ややりがいなどを学生さんと共有いたしました。学生さんは，仕事だけではなく，日常生活を含めた先輩の話に聞き入り質問を行っておいりました。

2 つ目のグループワークでは 30 分間で，「就職について皆で話そう！」という題について行いました。学生の皆さんに，進路を選ぶ上で気になることについてご質問いただき意見交換をしました。仕事の話だけではなく，「1 年目で休暇もとれるか」，「残業はあるか」といったことなど，面接などではなかなか聞きにくいような話題や，「朝早い時間からの勤務か」，「働き続けるには何が大事か」など働き方やライフスタイルに関する話題も出まして，各グループ非常に盛り上がりを見せていました。

このような流れで意見交換を進め，3-2 の裏面に皆さんに話し合っていたいただいた内容の一部をまとめさせていただきました。時間の関係上，数点だけ紹介させていただきます。学生さんからは，「残業が多そう」とか「朝早そう」というイメージがありましたが，先輩の話聞いて必ずしもそうではないということがわかり，非常に安心した，他の業種とあまり変わらないのではないかと感じた，というご意見

がありました。一方、利用者の体調次第ではその日の支援がガラッと変わるというのは大変だと思ったというご意見もいただきました。また、最終的には福祉の仕事には答えがない、そして答えがないからこそ福祉の仕事はおもしろいのではないかと感じたというご意見もありました。先輩職員の皆様はそれぞれプライベートの楽しみを持っており、充実していると感じましたなどというご意見もいただいております。

若手職員さんからは、今時の学生さんがどのようなことを考えているか知る機会になったので、それを知れてよかったですという意見をいただいております。このような流れでご意見を拾っております。

アンケートの結果を見ても、グループワーク①については、「とてもよかった」「よかった」という声がありました。グループワーク②についても、「よかった」「とてもよかった」という評価をほとんどの方からいただいております。

例えば学生さんから、30分では短かった、もう少し話しをしたかったという声も多くいただいております、我々も非常に価値がある交換会だったと思っておりますので、来年度は今回の課題などを踏まえ、このように若者の声を聞ける場をつくっていく形で検討したいと思っております。

最後に3-1の今後の取り組みでございます。今年度、関係各所へのヒアリングを実施した結果、各障害福祉事業所が人材確保に取り組んでいる一方、学校においては、「求人時期を他業種と同じ3月頃に前倒しできると学生が検討に入りやすい」といったことや、「求人票の書き方など、より学生の興味関心に沿った改善ができれば、学生への訴求力も上がり、人材確保につながるのではないか」と感じていることがわかりました。

学生さんやキャリアセンターからこのような話もいただいております、このことを踏まえ、今年度中に障害福祉事業所と学校、学生全てにとってメリットがある取り組みとして、今時の学生の現状やそれを踏まえた効果的な求人方法を事業所さんに共有できる研修会の開催を行いたいと考えております。

資料3については以上でございます。

会 長 ありがとうございます。

障害者保健福祉計画に係る質的モニタリングとして、学生さんや若手職員さん、そして施策推進協議会の委員さんにも一緒に入ってください、ココロン☆ワークスペシャルを実施したことについて事務局から説明がありました。

当日は、岩槻委員、奥田委員、小野委員、佐々木委員、柴田委員、清野委員、高橋委員、中村委員そして原委員の9名の委員の方が出席されたということです。本日は、この9名の委員の方々から感想やご意見を承りたいと思っておりますので、お願いいたします。

岩槻委員、感想も含めてよろしく願いいたします。

## 平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）

- 岩槻委員 心のネットワークみやぎの岩槻と申します。  
学生さんからは、事業を比較したいという意見がありました。若手職員さんからは、ハードなスケジュールもこなしているという意見が出ました。それしか思い浮かばないです。
- 会長 ありがとうございました。  
続きまして、奥田委員お願いいたします。
- 奥田委員 幸泉学園の奥田と申します。  
実際に参加させていただき、グループ討議を見せていただきました。その中で、2、3年上の先輩である実際に働いている職員の方と学生さんのやりとりを見させていただきましたが、障害施設という職場に対するイメージがなかなか湧きにくいのだろうということが1つありました。  
ですから、もし可能ならば、もう少し早い時期に実地的なものとして、学生と実際にそこで働く職員とのコミュニケーションを図りながら、施設とはこういうところだよというわかりやすい説明があるとイメージが付きやすいかなと思いました。そういった意味では、今後、現実的に就職フェアのようなものを進めていけば、新しい職員の方を募集しやすかったり、応募しやすかったりするのかなと思っておりました。ありがとうございます。
- 会長 ありがとうございました。  
続きまして、小野委員、よろしく申し上げます。
- 小野委員 NPO法人 Switch の小野です。  
当日参加して、非常に熱心な学生さんが参加していたことにとっても驚きました。正直なところ、言い方は変なのですが、自分の法人で求人を出した時になかなか出会わないような、非常に志が高く、おそらくココロン☆ワーク スペシャルに参加しなくとも、福祉の世界には入ろうという気概を持って学生生活を歩んでいるような方が参加されていました。  
質問も具体的だったり、自分の気持ちを素直に言えたりというところに非常に驚きましたのと、若手職員の先輩方がそれを受けとめて丁寧に答えてくれたことが印象的でした。  
あと、若手職員の方が私の班にも3人いましたが、その方々もほかの事業所の様子を全く知らないということがあり、みんなで1つの話を楽しく聞きながらキャッチボールするという様子で盛り上がっていました。  
ですので、気になった点としては、参加学生の幅を広くしていくために、開催回数を多くしたり、もっと来やすい場所で小まめに開催したり、あとは学年や年次も様々とは思いますが、いろいろなターゲットに絞りながら開催すると、もっとハー

## 平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）

ドルが低い段階で参加できて、いろいろなつながりができるのかなと考えました。楽しく参加させていただきました。

会 長 小野委員，どうもありがとうございました。  
続きまして，佐々木委員，よろしくお願いします。

佐々木委員 仙台歯科医師会の佐々木です。  
実は，息子が今回お会いした学生さんたちとほぼ同じ年齢で，歯学部の学生になります。業務上，歯学部の学生と接する機会が多くなりますが，たまたま集まってくれた子たちの認識がすごく高かったこと，あとは，女の子で，自分でしっかり考えている子が多かったので，自分の子どもよりも大人に見え，福祉業界って結構明るいなと思いました。専門性の高い歯学部のような学部だと，どうしても専門の勉強ばかりになるところもありますので，その辺の差かと思い，大学の教授に提案してみようかなと思った次第です。以上です。

会 長 佐々木委員，ありがとうございました。  
続きまして，柴田委員，よろしくお願いします。

柴田委員 自閉症協会の柴田です。  
私も初めてこういう会のグループワークに参加させていただきましたが，皆さん本当に熱心にお話しを聞かれていたり，お話しをされていたと思います。  
私のグループでは，老人福祉施設に勤めている方と障害者施設に勤めている方がそれぞれお話をされていました。同じテーマではありますが，職種は一緒でも老人と障害者というところに違いがあり，それぞれを熱心に聞いていた学生さんの姿がありましたので，そういったことも偏りが出ずよかったのではないかと思います。  
それから先ほどのご意見にもありましたが，4年生だとせっぱ詰まっているという感じがあり，一生懸命に若手職員の方の話を聞いたりしていました。学年ごとに分けるなど，その辺りはいろいろな方法があると思います。  
まだ始まったばかりの会だと思いますので，これが参加した学生さんから「行ってみたら楽しかったよ」と，ほかの学生さんに広めていっていただくと良いかと思っています。  
これからも，1回の大きな会ではなくとも，回数を細かくして少しグレードを下げた会でも，何回か計画できるといいかと思いました。大変参考になりました。

会 長 柴田委員，ありがとうございました。  
続きまして，清野委員，お願いします。

清野委員 ピアサポートチーム七夕の清野です。

若手職員さんが就職を決めた理由について、学生さんが質問されていました。うちのグループでは、見学や実習などで実際の現場に行き、そこで働いている職員さんたちが、すごく生き生きと楽しそうに障害をお持ちの方や高齢の方に接しているのを見て決めたという意見がとても多かったです。やはり見学や実習をさせてもらえるところが多くあるといいのだということを感じました。

また、うちのグループでは、新卒で福祉関係の仕事に就いたというよりは、一旦全く別の職種について、その後いろいろなきっかけがあり、転職されて福祉に携わっているという方が多くいらっしゃいました。それで、学生さんだけではなく、転職組の皆さんの中にも、いろいろな経験をされたことを生かしつつ、福祉に来てくださる方も良いのではないかなと思いました。ハローワークとの連携などにより、学生さんだけではなく転職組の方もターゲットとして良いのではと思いました。

ココロン☆ワーク スペシャルはとても楽しかったです。何よりも、障害企画課の職員の方がネクタイまで外し、場づくりをしっかりとされていて、学生さんたちが話しやすい雰囲気をつくられていました。時代に即した場づくりはとても大事だと思います。私たちの世代とは異なり、ネット上でのやりとりが多い学生さんたちに実際にその場に来て話をしていただくのは結構ハードルが高いと思います。参加してみたら、仙台市の職員さんがフランクに話をされていて、課長さんも障害者施策推進協議会でお話しされている雰囲気ではなく、とても話しやすい感じでした。

その場づくりとはとても大事だと思いましたし、障害者施策推進協議会もそのように話しやすい場だと良いと思いました。とてもすばらしい企画だったと思います。

会 長 清野委員， どうもありがとうございました。  
続きまして， 高橋委員よろしくお願ひします。

高橋委員 仙台ワークキャンパスの高橋です。

初めての企画に参加したこともあり， どのようになるのか少し不安なところもありながら参加をしました。

ただ， 参加された学生さんが， 一言でいうと優秀な学生さんといひますか， 自分の志がはっきりしてひいて， 中にはすでに就職が決まひている方もひいて， 本当に驚きました。ただ， 就職が決まひた方の中にも， 「職場に嫌な人がひいた時にはどうしたらひいのか」とか， 「嫌な先輩がひいた時には我慢しなければひいけないのか」とひいた質問をされる方がひいました。福祉業界は入ひてみればほかの業界と変わらなひけれども， 外から見るとわかりづらひ世界なのかと改めて感じました。

一人一人の学生の方に持ち帰ひてもらったものがあひたかと思ひますので， 福祉ってどうなのかなと思ひているあまり積極的ではなひ方や， 福祉の勉強はしてひけれどもというような方などに， もう少し広く浅く接する機会が増えるとひいと感じました。

## 平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）

会 長 高橋委員，どうもありがとうございました。  
続きまして，中村委員よろしくお願ひします。

中村委員 知的障害者関係団体連絡協議会の中村です。  
福祉に関心を持った学生さんがたくさん来てくださいましたが，やはり実態がわからないため，いろいろな質問が出ました。

でも，この企画がよかったのは，若手職員という学生さんにとって非常に身近な存在である先輩から話が聞けたということが，とても参考になったことだと思います。福祉の大変さやきつさというようなイメージを持っていた方が，「何だそうだったのか」というように思う場になったと思います。

今後，今回同じグループになった先輩職員のところへ学生さんが施設訪問をしたり，実習に行ったりというような関係までつなげられたら，今回のことは成功だったと思います。

求人をしてなかなか人材が集まらないという悩みをいつも抱えていますので，そういうことから見たら，非常に今回のココロン☆ワーク スペシャルは，大成功だったのではないかと思います。

会 長 中村委員，どうもありがとうございました。  
続きまして，原委員よろしくお願ひします。

原 委 員 仙台市教育委員会の原でございます。

私どもの課でも，通常の学級にいる発達障害の子どもを補助してくれる方など約 300 人を雇用しております。実は教育委員会でも，先生方のほかにいろいろな方を雇用しており，今は売り手市場ということもあり，人事に関して人が足りなくて困っているというのは，どこの世界も同じだなと思いました。

その中で，このように積極的に攻めていくような，人を集めるための努力をされているというのは，とてもすばらしいことだなと思い，私も参考にさせていただいた次第です。

先ほどの清野委員からのご意見に同感でございまして，事務局の皆さんが，役所っぽくない雰囲気を一生涯懸命つくろうとして，でも役所っぽいのですが，それを学生さんたちは真剣に受けとめてくれていました。多分，「役所の人たち，無理して一生懸命やってくれている」なんて思っていたと思うのですが，それがとても良かったです。就職説明会や福祉については，教育もそうですが，どちらかという建前で話さなければまずいのではないかと感じてしまいましたが，最初にリラックスした雰囲気をつくっていただいたので，学生の皆さんは最初から建前ではなく本音でお話しされていました。

話題としてどのようなものが出たか少しお話ししますと，私のグループではお給料のことはあまり出ませんでした，勤務時間についての質問が出ていました。「残

業時間は多いか」とか、「朝早く起きられないけど、早く出勤しなければいけないか」といったことでしょうか。中には、「私は 4 時半ぐらいに起きています」という方に対して、「逆効果じゃないのか」とか、「4 時半に起きなくても大丈夫」なんていう話をしていました。それから、実習がとても大変だというお話も出ていました。それに対しては先輩方から、「無理しないでやって」などのいろいろなお話が出ていました。「休暇がとれるか」ということについては、随分学生さんから質問がありました。そういった本音が出るということは、とてもいいことだったと思っております。

これから課題だと思うのは、本音が出ればそれでいいかということ、必ずしもそうではない部分もあるということです。私たちが仕事をする理由は、収入を得られるという実利的な面ももちろんありますが、一方で働きがいや自分なりの人生の志、社会への貢献など、どちらかという建前に近い部分もあると思っておりますが、その両面があることで仕事が選ばれたり、そこに生きがいを感じたりすると思っております。私個人としては、むしろもう少し建前の部分もあったほうが良かったという印象はございました。

もう一つ課題としては、今回は初めての会ということもあり 21 名の参加者でしたが、求人不足を補うための会でもあるので、本当はもっと参加者が多いほうがよかったかと思っております。せっかくいい会なので、もっと参加者が多く来るといいなという印象を持ちました。

また、今までもご意見がいくつか出ておりましたが、参加した学生さんたちは、おそらく一般的な学生さんよりも資質能力が高い方や、志がある方かと思っております。むしろ、実は私も若いころそうだったのですが、やる気も志もない、そういうのほほんと生きている一般的な学生さんにいかに参加してもらうか、参加してみたら良かったので福祉の世界でやってみるかと思ってもらえるような、そういったより広く一般的な学生さんに来ていただける手だてが今後工夫できると、より良い会になると思いました。以上でございます。

会 長 原委員，ありがとうございます。

当日出席された 9 名の委員の方々にお話しいただきました。

ただいまの 9 名の方のお話を伺った上でということでもよろしいですし、日頃福祉人材の方とのかかわりもあろうかと思っておりますので、ほかの委員の方々にも感想・ご意見をいただきたいと思っております。

菅野委員，いかがですか。お願いします。

菅野委員 仙台市サンホームの菅野と申します。

私は若手職員を送り出す側の立場でした。ぜひ参加してほしいなと思っていかせた職員については、先ほども話題に出た、人材の定着という意味も大きく、自分の仕事を振り返って人に話すことがその職員の仕事継続への自信にもつながりました。

## 平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）

さらにモチベーションもアップするのを期待して参加してもらいましたが、実際に生き生きと話しができた様子でしたし、本人からもいろいろな方と話しができたことが大変参考になったということでした。

なかなか施設外の方との接点を結びにくい職場になっていることから、年に数回の交流等は、職員のモチベーションの維持、アップという面での効果もあったのではないかと感じました。

会 長 ありがとうございます。  
鈴木委員， よろしくお願ひします。

鈴木委員 仙台市社協の鈴木でございます。

こういった取り組みは、幅広く継続して実施していくというのがとても大事だと思っています。県の社会福祉協議会や福祉人材センター運営委員会のようなところに出席させていただいた際にお聞きした専門学校のお話ですと、介護職の専門学校はほとんどが定員割れとなっているということです。例えば一時期を 100 とすると、30 や 20 ぐらいの方しか専門学校には来られないという現実があり、運営自体を縮小したり、下手をすると介護職の教室を閉じたりするような状況になっているということをお伺ひしています。ハローワークの委員さんがおっしゃるのは、その中でも特に、やはり障害分野は特に人材確保というのが難しいというようなことはお話をされてございまして、そういう意味では、こういう形での取り組みというのをやはり広げていく。委員の皆様のお話にもあったように、実際の職場なり仕事の中身というのが、障害分野だとなかなかわからないというのが大きいのかなと思っていますので、そういう意味では先ほど回数を増やしてというお話もあったように、自由に話せるそういう場を広くつくっていくというのは、すごく大事なことだと思いました。以上です。

会 長 鈴木委員， ありがとうございます。  
中嶋委員， お願ひします。中嶋委員は障害者スポーツ協会のご所属ではありますが、学生を支援する立場からのお話もよろしくお願ひします。

中嶋委員 仙台市障害者スポーツ協会の中嶋です。

実は今日、午前中に子ども・子育て会議にも出席させていただいてまして、保育や幼稚園の現場でも非常に人材確保に苦慮されているという話を伺ひました。受入人数を削減しなければならないほどの事態に陥っているというお声もいただき、福祉人材の確保はこれから本当に真剣に取り組んでいかないとならない、喫緊の課題であるということを感じております。

その中で、まず私の知っている限りでの話にはなりますが、今回のココロン☆ワーク スペシャルは、取り組みとしてとてもすばらしいものと思っております。ま

ず時期の話ですが、今度は3月に開催されるということで、とてもいい取り組みであると思います。仙台もそうですが、どうしても東北は首都圏よりは求人を出される時期が遅いので、学生が待ち切れないという状況もあるようです。首都圏の場合ですと、企業にいい人材が流出することを防ぐために、企業と同じぐらいの早い時期から説明会や採用試験を実施されるという事業所さんも大変多いと伺っています。私の知っている学生から、仙台で求人が出るならもう少し待っていたのに、神奈川県で就職を決めてしまったという、ある意味少し残念なお話をいただくようなこともあります。したがって時期は非常に重要だと思います。

また、今回は大学生をターゲットとしておりましたが、仙台市であれば小学生から自分づくり教育などが広がっていますし、中学校ですと公立も私立も修学旅行の中に体験学習的な要素を盛り込んだり、大学見学を取り入れたりしている学校が非常に多いと伺っておりますので、中学生あるいは高校生を巻き込むような取り組みも非常に大事だと思います。というのは、大学に進学してからですと、社会福祉士や精神保健福祉士、介護福祉士にしても、即養成がスタートするということがありますので、高校生を対象とするのも有効なのかと感じます。

それから、学生の流れを見ておきますと、ボランティアや実習で受け入れていただいた施設さんや事業所さんに就職したいということを知っています。それは安心感を持てるということもあると思いますので、例えば、ボランティア活動などの受け入れを積極的に行っていくことが非常に効果的だと感じています。

また、最後に、学生たちの話によると、働くことの魅力の中で、休日や給与も決して度外視できないものになっています。月々のお給料や期末手当の掛金などはもちろん、例えばリフレッシュ休暇があるのか、1年間働くとどのくらいのお給料をもらえるのかというような、全体像がわかる情報が載った求人票などをみると、自分自身もアプローチしていきやすいという話を学生たちがしていたことを記憶しており、その点についてお話をさせていただきました。以上です。

会 長 中嶋委員、ありがとうございました。  
続きまして、西尾委員、よろしく申し上げます。

西尾委員 当日は残念ながらほかの用で出席できませんでしたが、やりがいのある仕事だと思いますので、ぜひ今後もこういう形で開催していただければと思います。

ターゲットを絞ってというご意見もありましたし、高校生も対象にというご意見もありましたが、例えば中学生で好きな職業を選んで実習に行くというのがありますので、教育委員会などとタイアップして、中学生の時からそういった機会が増えるといいのかということも思いました。

それから、最初にネガティブなことを語っても、その後どのくらいフォローアップするかということが大事なので、そういう意味では、この協議会の仕事ではないかもしれませんが、持ち方をどうするかは別にして、もっと福祉の人材が定期的に

## 平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）

いろいろなことを語り合ったり、お互いにアドバイスし合ったりする会議をやっていたきたいと思います。

最後に、夢や希望を語っていても、やはり給与などの面も大事なので、そのことについてもこの協議会も含め今後検討しなければいけないと思っています。以上です。

会 長            ありがとうございます。  
                  続きます、支倉委員、よろしくお願いします。

支倉委員        MPC の支倉です。

出席したいと思っていましたが、都合が悪く出席できず残念でした。学生さんや現場で働いている方の声を聞きたいと思っておりましたが、今の皆さんのお話をお聞きし、やはり参加したかったと思いました。

私も昔、体を悪くする前は保育士として働いていましたが、いいことも悪いこともありますので、学生さんがお話しを聞かれた時に、大変だというような話が出なかったのかなと思っていました。ただ、いろいろな人からいろいろな情報を聞くということは大事なことだと思いますので、これからもどうぞ続けていってください。

会 長            支倉委員、ありがとうございます。  
                  では、大坂副会長、よろしくお願いします。

副 会 長        当日は仕事で出席できず申しわけありませんでした。

就職について、このようなイベントを開催する時には非常に重要なことが3つあります。1つは、参加されている職員さんの施設は、基本的に特徴のある良いことをしているの、そういったところをしっかりと伝えられるかどうかということです。それからもう1つは、現状として、こういった優秀な方は、第一には公務員系の福祉職に就職します。宮城県や仙台市、県社協といった大きな社会福祉法人などです。そういった現状があります。

最後は、1つ目とも関係ありますが、それぞれの学生は人生における自分の願いを持っていて、それがかなうところに行きたいということがあります。そういう人は、待遇は二の次三の次なのです。多分、NPO 法人などの職員さんで、一生懸命やっている方に多いと思います。そういう方がいなくなったわけではなく、そういう方に上手にアプローチできてないという現状があり、そういった方は福祉の分野だけではなく、いろいろな分野に興味を持っているので、別な分野の NPO に行ってしまうということがあります。福祉は自分の願いがかなうと同時に、目の前にいる当事者の願いをかなえるお手伝いもできるという二重三重の楽しみがあるので、そういうことをしっかりと伝えることができると良いと思います。

学生さんにどうして聞いたこともない NPO に就職したのか聞いてみると、とても

おもしろそうだったから、自分はまず 3 年間そこでやってみたいと話すが少なくないです。入社 3 年目ぐらいの先輩たちが、自分の法人のおもしろいところ、いいところをしっかりと伝えていくことが大事です。

大きな法人であれば、先輩が後輩を育てていくという仕組みがあります。また、大きな法人で取り組んでいるのは、学生をボランティアではなく積極的にアルバイトとして雇っています。そうすると、その中で仕事に合った人がそのまま就職するということもあります。

では、NPO や小さな法人はどうするのというと、例えば仙台市の障害者施設で働く職員に向けた研修の仕組みを上手に利用して育てていくなど、行政と一緒に取り組んでいく方法があります。これには、法人を経営している方たちが上手に関与しながら進めていく必要があると思います。

そういったことをしっかり進めて、皆さんがやっているいいことや楽しいこと、おもしろいことを売りにしていかないといけない。先ほど幼稚園教諭と保育士の話が出ていましたが、東京は加算により待遇が全く異なるため、保育士さんはみんな東京に行ってしまうということがあります。別な視点から見て、ココロン☆ワークスペシャルを上手に使うというのは、私はいいことだなと思っています。

最初の取りかかりとしては、そういうことがわかってよかったという皆さんのお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。

会 長   ありがとうございました。

委員の皆さん全員からお話を伺いました。

学生さんは早くから求人が出ているところを意識しますが、障害関係施設はなかなか早く求人を出せないところが多いということです。大きな施設か、4 月にオープンする施設であれば求人が出るかもしれないということですが、学生さんは周囲の就職が決まっていくと、自分も決めなければいけないという流れになっているように思います。

そのようなことで、障害領域に進む学生さんも、実は前から決めていて、もう既にそこでボランティアしていたり、バイトまでいけば一番いいのかもしれないけれども、そういう学生さんで、施設をよく知っていると、行きたいという思いがあります。

ただ、一般の学生さんは、初めて実習で現場に行くと、現場っていいなということを感じるのが実習終了後ということで、学校によっても違うかもしれませんが、間もなく夏休みという時期です。もっと早くから現場を知っていればいいのになと思います。ですから、施設によってはボランティアを募集するなどいろいろな取り組みをしているところもあれば、大坂委員からもありましたように、アルバイトとして一緒に働き、そのまま就職するという学生さんもいるようです。

それから、これも大坂委員と重なるかもしれませんが、就職後の研修というのはとても大事だと思います。仙台だと東北の研修会を行う場所にもなります。私は今

年の夏は 2 つほどの研修会におつき合いさせていただきましたが、そこでグループワークを使ったりしてお互いの施設の情報交換をしながら、これからそういうふうに取り組むんだということでブロックの方々はおっしゃっていましたが、やはり定着というのはとても大事なことですよね。などを含めて、学生さんは、いろいろな人が出られるように設定するといいいのかなと思います。

今回は素晴らしい学生さんが参加されたというお話がありましたが、もっといろいろなところに広報すれば、ほかの方にも参加いただけるかと思います。

うまく言えないのですが、学生たちは現場実習に出て現場で働きたいと思うのですが、もう一つ今大きな問題は、介護・福祉の現場で事件があると、親御さんが心配するということがあります。

例えば、「ケア・ヒーローズ」という動画があり、高校生向けに介護・福祉などいろいろな現場について、宮城県版であれば全 23 分で見られるものがあります。この頃、親御さんが心配していることが多いと感じており、そのようなものを親御さんにも見せるといいのではないかと思います。どうしたらもっと福祉の人材が集まるかということ、学生さんにテレビで暗いイメージのニュースを流さないこと、福祉の現場を明るく捉える番組があると随分違うという話を聞くと、なるほどと思います。

今回のココロン☆ワーク スペシャルは、実際に働いている若手職員の方と交流できたことで、学生さんにとってもいろいろ考える機会になったかもしれないと感じました。

今日は委員の皆様全員からご意見をお聞きしました。もう少し時間がありますので、ココロン☆ワーク スペシャルにかかわった職員の方からも感想・ご意見をお聞きできればと思います。よろしくお願いします。

事務局  
(小幡係長)

事務局，企画係の小幡です。私も企画係の職員が、ココロン☆ワーク スペシャルのファシリテーターとしてグループに参加しておりました。今日は参加した職員のうち私を含めて 3 人がおりますので、少し話を聞きたいと思います。

事務局  
(太田主事)

大変僭越ながらコメントさせていただければと思います。障害企画課企画係の太田と申します。

ココロン☆ワーク スペシャル当日は、原先生と同じグループで楽しくお話をさせていただきました。原先生，ありがとうございました。

今回開催してみて感じたところですが、委員の皆様のお話しのとおり、学生さんは意識高いばかりでとても驚きました。思っていた以上にたくさんの質問が出たこともあり、企画させていただいた甲斐があったなと大変うれしく感じておりました。

グループワークの途中で、少ししーんとなる時もありましたが、そういう時に各グループの委員の皆様が話をリードしていただいたり、アドバイスをいただいたりしましたのが非常に助かりました。学生と若手職員だけではなく、グループの全員

で理解を深められる貴重な時間だったと思いました。

会 長 ありがとうございます。

事 務 局 障害企画課企画係の平吹と申します。

(平吹主事) 岩槻委員、清野委員と同じグループに参加いたしました。

先ほどのご意見にもありましたが、グループ内には全く別の職に就かれてから福祉業界に入られた方が3名ほどいらっしゃいました。まだ就職をそこまで意識されていない大学2年生から、就職を意識している4年生まで、さまざまな学生さんが職員さんのお話を聞き、実は起業したいとか、福祉業界に就職するかどうか悩んでいるとか、非常に生々しい意見がたくさん出てきました。

ほかの職業も経験されてから福祉業界に入ってきた若手の職員さんが、いろいろな人生経験をされた中から、なぜ福祉業界を選んだのかというお話をされたことで、学生さんからは刺激を受けたという感想をいただきました。

私にとって障害企画課は福祉部門としては2カ所目の職場になりますが、こういうふうには仕事をしていきたいと、私自身も刺激を受けた大変よい経験になりました。

事 務 局 障害企画課の小幡に戻させていただきます。

(小幡係長) 私は小野委員と一緒にグループで参加させていただきました。

委員の皆様からお話がありましたように、非常に志が高い学生さんたちが多かったなというところが、まず感想としてあります。

その志の源泉がどのようなところにあるのか、私も不思議に思っていたのですが、自己紹介の際、ご家族や身近なお友達などに障害のある方がいるという方がほとんどで、そうした身近に障害のある方がいるからこそ、自分が福祉の道に進むことは自然なことだとお話しになっていたのが、とても印象的でした。

では、そのような方が身近にいないと福祉の道を選ばないのかというと、そういったことが逆にヒントになり、若いころから障害のある方と触れ合い交流し、障害のある方が身近にいて当たり前だということを少しずつ広げていくことができれば、福祉の仕事に就くことが、今よりもっと当たり前の環境になっていくのではないかと皆さんのお話から思っていたところです。

あとは、給料や休暇の面などいろいろな生々しい話を学生さんが知りたいのではないかとということで、私たちのほうで水を向けた部分というのもありました。

若手の職員の方も、そういったことを PR する場と意識して、自分の職場の給料体系やキャリアプランの形成の仕方などを紹介してくれた方もいらっしゃいました。学生さんも職員さんも双方に意識の高い方が集まったという印象を受けております。

今後は、そういう方ではない方といいたいでしょうか、それほど将来を意識して学生時代を送っているわけではない学生さんたちにアプローチをする方法を検討し、こ

のワークショップに参加することで福祉に興味を持ってもらえる機会がつくれたらいいなと考えております。今後、企画の際の検討材料としていきたいと思っております。

皆様、本当にご参加いただきましてありがとうございました。

事務局  
(菅原課長)

最後に、障害企画課長の菅原でございます。

若手職員より感想を述べさせていただきました。我々にとっても若い力というのは非常に大切なものと認識しております。

彼らは参加いただいた学生さんより若干年上ではありますが、若い人の気持ちを考え、苦労しながら手探りで進めた初めての会でございます。改めて、若い人の声が聞けた大切な機会であったと認識しております。

確かに、来ていただいた学生さんは意識が高い方ではないかと我々も認識しております。そのほかの多くの学生さんに来てもらうにはどうしたらいいか、口コミがいいのか、日曜日ではなく平日のほうがいいのかなど、これからいろいろなところを研究し、来年度は多くの学生さんに来ていただけるようにしてまいりたいと思っております。

また、学生さんだけでなく、事業所の職員さん 14 名にも参加いただきました。会場の広さには余裕があったように感じておりますので、事業所の職員さんにも数多く来ていただき、人材確保だけではなく定着という面ではどのようなことをやっていったらいいのかということも、この場で話し合っただけだと思います。

また、清野委員のご意見のとおり、転職組の方への取り込みもございますので、その辺も含め来年度の実施方法について、これから研究してまいりたいと考えております。以上でございます。

会長

ありがとうございました。

転職する方も対象にということであれば、通信教育を受けて社会福祉の資格を取得する学生さんたちもいらっしゃいます。また、人数が少なくなってきたという話がありますが、専門学校の子供さんたちにも志の高い方がいらっしゃいます。そういう方々に対象を広げると、おそらく喜んで来ていただけると思います。

ただいま質的モニタリングについて、委員の皆さんからご意見・感想をいただき、参加した職員の皆さんからもお話をいただきました。

それらを受けて委員の皆様からご意見はございますか。西尾委員、お願いします。

西尾委員

モニタリングのあり方に関してです。

今回が初めての協議会への出席になります。量的モニタリングでは、第 4 期の計画を踏まえて次期に生かしていこうということでしたが、その検討としては見込みに達したかどうかということでした。

私は現場では精神科医として臨床をしていますが、患者さんの中には就労継続支援 B 型を利用している方もいれば、就労移行支援を利用している方もいます。例え

ば、移行支援を利用している方で、ある程度力があり、バイトをしたいから事業所を辞めたいといっても引き止められるという方がいます。引き止めれば利用者数は上がりますが、本当にその方の夢や希望をかなえるということのためには、むしろ一時的には利用者が減るということもあります。私から見ても、一般就労のできる力がある方だと思っはいますが、計画相談の事業所が同じ法人なので、そこでもきちんと相談に乗ってくれないということです。就労継続支援 B 型の利用者数は増えますが、それでいいのかということがあります。

本来であれば、量的モニタリングで検討した方がいいことについては、質的なモニタリングを実施する観点も大事だと思います。

教育やリクルートも大切ですが、見込量を達成したかということだけでなく、もっといろいろと検討する余地があるのではないかと聞いていました。

会 長 大事なご指摘だと思います。

これまでも実際にサービスを利用している方や事業所さんへのモニタリングも行っていたと思いますので、西尾委員のご指摘も踏まえ、さらに検討を進め、委員の皆さんとともに取り組めればと思います。

ありがとうございます。

#### (5) その他

会 長 それでは、その他に移ります。支倉委員、お願いします。

支倉委員 全国膠原病友の会の宮城県支部の支倉です。

前に戻りますが、仙台市における障害関係統計値の推移についてです。私も難病ですが、8の難病認定者等数の推移について、増加傾向にあった指定難病の認定者数が減少に転じたと書いてあります。

指定難病数は約 300 に増えておりますが、なぜ認定患者数は減少しているのでしょうか。

会 長 事務局お願いします。旧特定疾患ということかも含めてお願いします。

事務局 障害者総合支援センターの只埜でございます。

(只埜主幹) 指定難病の認定者数が減少に転じたということですが、平成 28 年度が 8,600 人、平成 29 年度が 7,900 人ということで、本当に減少しているのかどうかは、もう少し推移を見ていく必要があるかと考えてございます。

確かに、毎年、指定難病の数が少しずつ増えているということではありますが、1つの疾患でぐくわずかの対象者数ということもあり、1つ2つ対象の疾患が増えても、それほど大きな増加にはならないとは考えておりますが、この約 600 人の減少

## 平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）

につきましては、もう少し動向を見ていく必要があるかと認識しております。

会 長 支倉委員，よろしいですか。  
ありがとうございます。その動向を見て報告になるということでございます。  
そのほかいかがでしょうか。清野委員，お願いします。

清野委員 ピアサポートチーム七夕の清野です。  
その他ですが，以前の施策推進協議会の中で，仙台市立病院の精神科のお医者様の件で，家族や当事者が不安を抱えていらっしゃるということをお聞きしたことがありました。  
先日，よりそいホットラインの仕事の中で，自殺未遂を起こした方が救急車で運ばれ，先生方と情報共有をしたり転院先を探していただいたりしました。  
大変丁寧に対応していただき，宮城県内の受け入れ可能な病院をくまなく探していただきました。渋谷先生と和田先生にご対応いただきましたが，これほどきめ細やかに対応をしてくださる先生がいるのであれば安心だと思えました。そのことをお伝えしたくて発言いたしました。

会 長 ありがとうございます。そのほかにはありますでしょうか。  
では，私からの確認になります。現在，中央府省で雇用水増しが問題となっており，宮城県でも問題となっていました。仙台市では問題ないことは知っておりますが，皆さんもご心配だと思うので，その辺のところについて少しコメントをいただけないでしょうか。

事務局 雇用については，仙台市は基準より上になっており，問題ない状況になっております。  
(菅原課長)

会 長 ありがとうございます。そのほかはご意見等よろしいでしょうか。  
それでは，予定通りその他にまいります。

事務局 最後に，その他ということで，障害者週間の取り組みの1つとして「ウエルフェア 2018」という催しを紹介させていただきます。様々な事業がありますが，12月9日に福祉プラザのふれあいホールで開催するステージ発表の最後に，元パラリンピック日本代表の永尾嘉章さんをお招きし，障害者スポーツについての講演を開催いたします。永尾さんはパラリンピックに日本代表として最多の7回出場し，レジエンドと呼ばれております。ご経験に基づいた講話をしていただけないということで，事業所の職員の皆さまにもご参考になるかと思っておりますので，ぜひご来場いただければと思っております。

また，仙台市では今週の月曜日よりヘルプマークの配布を始めております。土曜

## 平成 30 年度仙台市障害者施策推進協議会（第 2 回）

日には仙台市宮城野体育館でウエルフェアスポーツが開催されます。パラリンピックも近づいており、機運も高まっておりますので、ぜひこういったところにも触れていただければと思っております。以上でございます。

会 長            それでは、議事・報告は終了とさせていただきます、事務局にマイクをお戻しします。

### (6) 閉 会

事 務 局            阿部会長，どうもありがとうございました。

最後に事務的なご連絡を申し上げます。

本日の議事録につきましては，事務局にて案を作成の上，委員の皆様にお送りいたします。これに加除修正をいただきましてご返送いただければと考えております。これに基づきまして事務局が修正作業を行いまして，議事録として決定させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは，以上をもちまして，平成 30 年度第 2 回仙台市障害者施策推進協議会を終了させていただきます。

本日はお忙しい中ご審議いただきましてありがとうございました。

署名人

奥田 妙子